

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2019年11月号」

空の鳥をよく見なさい。種も時かず、刈り入れもせず、倉に収めもしない。
だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。 マタイによる福音書 6章 26節

秋もようやく深まってきました。10月に行いましたスポーツフェスティバル。教職について40年以上になりますが、風で延期したという経験はこれまでありませんでした。前日の午前中、青空で風もない中での延期の判断はチャレンジでしたが、皆さまのご理解のおかげで子どもたちの大きな成長の節目とすることができました。保護者の方々からもたくさんの感想をお寄せいただきました。本当にありがとうございました。

さて、毎年10月には西南学院大学女子同窓会「西南ゆりの会」主催で「SEINAN Woman of the Year」の表彰式（記念式典）と祝賀会が開催されます。これは、さまざまな分野で著しい活躍をした女子同窓生を顕彰する目的で、西南ゆりの会が2017年度に始めた事業です（プログラムより）。1回目の受賞者は、日本車いすテニス協会会長の前田恵理さん、翌年は終戦後の混乱で中国に置き去りにされた女性の人生を一人芝居で演じ続けている舞台俳優の神田さち子さんで、今年の受賞者は、児童文学作家の大庭 桂（おおば けい）さんでした。大庭さんは、子育てをするなかで、母として我が子に伝えたい思いを物語に込めて児童文学を書き始められたそうです。読んで楽しいというばかりではなく、大切なことを伝えたり考えさせたりする作品を書きたいと記念講演のなかで述べておられました。大庭さんの代表作の一つ「竜の谷のひみつ」を読んできましたが、「水はだれのものか」というテーマのもと、環境問題や豊かさとは何かといったことについても考えさせる内容です。その大庭さんの講演の中で特に印象に残ったのは「世直しは児童文学から」という言葉です。

人は、さまざまな体験を通し、そのときにあるいは振り返って見たときに感じたり考えたりすること、つまり体験を内面化することで感受性や想像力などの能力を獲得していきます。ですから子どもたちが成長していくうえで、実生活を通しての社会的体験や自然体験などはとても大切だと思えます。たとえば、友だちとけんかして仲直りをするという体験とその内面化を重ねることで、良好な人間関係を築いていく力が育まれていくのではないのでしょうか。体験の乏しい子どもは、内的にも貧弱なままに育ってしまうおそれもあるのではないかと思います。ただそう言うものの、一人の人間が体験できることは限られています。物語の世界に浸るとき私たちは登場人物と同化して、さまざまな体験をすることができます。長大な物語の場合には人生をたどることもあるでしょう。それは、少し大げさな言い方をすれば、読書を通していくつもの人生を生きることができるということかもしれません。読書を通して、たとえ間接的ではあっても数多くの体験と内面化を積み重ねていくことで、豊かな人間性と深い洞察力が育まれていく。「世直しは児童文学から」とは、そういうことを意味しているのではないのでしょうか。付け加えて言えば、感想文や日記を書くことは、体験を内面化するうえで大きな働きをすると思えます。

後援会からの援助もあって、本校の図書館は蔵書数が3万冊近くになり、古今東西の名作も揃っています。また教職員の授業研究も国語にスポットをあて、深く読み取る力の育成に全員で取り組んでいます。子どもたちには人格形成期に優れた文学作品に数多くであってほしいと願っています。秋の夜長、ときにはご家族で読書に親しむ日を設けてみてはいかがでしょうか。

